

# 新規採用教員へのインタビュー



公文 朋加 くもん ともか  
県立西大寺高等学校 教諭  
(令和6年度採用)

自己紹介

高等学校教諭として令和6年度採用されました。今年度は、2年生40人を担任しています。大学卒業後は県外で勤めていましたが、子育ての環境を考え、生まれ育った岡山県を受験しました。

## Q 教員を目指した理由を教えてください。

高校時代の担任の先生との出会いが大きなきっかけです。

高校在学中に、1年間カナダに留学をしました。短期留学を選ぶこともできましたが、「1年間でしたら語学を学びたい」と思い、1年間留学することに決めました。同級生の中には、短期留学をする子はいても、1年間の留学を選んだのは私だけだったので、留学から戻ってきた時には同級生はみんな卒業していました。一つ下の学年の生徒との学校生活となり、落ち込んで転校を考えたこともあり

そんな時、担任の先生が本当に親身になって寄り添ってくださいました。その先生は、留学前は別の学年団に所属されていて接することはほとんどなかったのですが、留学後に担任となり、私のことを気にかけて何かと声をかけてくださいました。先生にかけていただいた言葉は、今でも心の中に残っています。その先生のおかげで気持ちを



持ち直して学校生活を送ることができました。「担任の先生みたいに自分もなりたい」と思い、教員を目指すようになりました。

## Q 民間企業での経験について教えてください。

大学は外国語大学に進学し、そこで教員免許を取得しましたが、卒業後はアパレルブランドに就職しました。英語以外の部分で子どもたちに教える自信が持てず、民間企業も経験しておきたいと考えたからです。海外に行ってもっと英語を磨きたいという思いもありました。けれど、最終的には教員になることを目標としました。

アパレルブランドでは管理職候補の枠で採用されたので、採用から1年と少し経った頃に店長を任せられました。店長になると海外で働く機会もあるので、ちょうどコロナ禍となり、海外で勤務することは叶わない状況となりました。

ですが、店舗の責任者として人材育成や採用管理、安全管理などを経験する中で、社会人と

して知っておくべきことをたくさん学ぶことができ、教壇に立つ自信を持てるようになりました。そのため、就職から3年経ったタイミングで、進路を切り替えることにしました。

## Q 教員採用試験の対策について教えてください。

県外に住んでいましたが、両親の近くで子育てをしたいと思ったので、実家のある岡山県で教員になろうと思いました。

民間企業を退職後に英検1級の資格を取得し、「特別選考試験A①（英語の資格による特別選考（グローバル人材）」に申しました。県外の外国語大学を卒業したので、岡山県の教員採用試験を経験した友人がおらず、友人のつながりで岡山県に勤務されている先生に面接対策のことを教えていただきました。

## Q 授業で大切にしていることを教えてください。

単に「質問して良いよ」と投げかけても、生徒はなかなか質問できないと思っています。40

人のクラスなので、だいたい4人ぐらいのグループを作って、「二回ちよつと話し合せてもらん」と促すようにしています。理解ができているか確認したい部分については、「話し合いの中で答えを出してね」と伝えています。

また、「このニュアンスだと、実際は、こう受け取られるよ」といった実践的な知識を伝えることも大切になっています。



**Q** 新採用の1年間はどうか。  
たか。

数ヶ月の講師経験後、令和6

年度から新採用となりました。授業準備に時間がかかり、もつと時間をかけたいという気持ちもありながら、ほかの仕事や保育園の送迎もあつて、苦しい一年でもありました。

それでも「これだけはやらせたい」という部分を少しずつ自分の中に持てるようになり、生徒が一生懸命考えていたり、間違えても発言していたり、課題に対して議論したりしている様子を見ると、楽しさを感じられるようになりました。

教員を目指していた頃に想像していた「やりがい」を日々実感しています。

**Q** 職場の雰囲気はどうか。

担任の先生がベテランの方なので、日々たくさんのことを教えていただいています。子どもが熱を出して急に帰らなければならなくなることがありますが、先生方がいつも温かく協力してくださり、本当に有り難く思っています。

前職では常にメモを取り、何かが起こる前に報告・相談をす

ることを徹底していました。その経験を生かし、分からないことがあれば、自分から先生方に教えていただく姿勢を大切にしています。

**Q** 理想の教師像を教えてください。

高校の時の担任の先生のように、生徒に寄り添い、何かあつた時に気付くことができる教師でありたいと思っています。「ちよつと聞いて」と話しかけてくれる生徒もいれば、自分から話しかけることは苦手な生徒もいます。生徒一人一人に、機会をみつけて話しかけることを心がけています。

また、生徒には、「これは自分で選んだことだ」と思えるような経験を積ませたいと思っています。「こうしてみなよ」と声をかけすぎでしまうと、生徒自身が選択した経験にはなりません。指示を待つのではなく、「何をすべきか」「何が足りていないか」、状況を見て動く力を身に付けてほしいと思っています。

**Q** 最後に、是非伝えたいことはありますか。

生徒と一緒に何かに取り組んだ時や一緒に喜べた時、そして「成長したな」と思えた時に、この仕事のやりがいを強く感じます。

先生方から、「卒業までの3年間を見届けられたら、教員観が大きく変わるよ」と聞いていたので、今以上にやりがいを感ずることができると、とても楽しみです。

